

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471901254
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋
事業所名	グループホームひなたぼっこ
訪問調査日	2014年10月21日
評価確定日	2014年12月20日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901254	事業の開始年月日	平成14年2月1日	
		指定年月日	平成14年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋			
事業所名	グループホームひなたぼっこ			
所在地	( 239-0842 ) 神奈川県横須賀市長沢 2-13-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年9月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月21日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私ども「グループホームひなたぼっこ」は横須賀市の南部に位置する海沿いの町長沢とというところにあり、東京湾を一望できる緑に囲まれた温暖な日本家屋を活用しています。広い庭では草木がが育ち季節ごとに果実も実つけ、野鳥も毎日訪れます。

利用者・ご家族・地域・医療機関等と手を携えて「共に支えていく」ことを目指し、運営に当たりたいと考えております。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年10月21日	評価機関 評価決定日	平成26年12月20日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の経営母体は、NPO法人優游の朋です。法人の理事長は、以前老人保健施設での勤務経験から、認知症高齢者の理想的な「終の棲家」としての志を立て、NPO法人優游の朋を立ち上げました。この事業所は平成14年に開所し、理念の一つに掲げている「利用者が安心して生活出来る生活環境の確保」の実現のため、建物は二階建ての民家改造型になっており、部屋ごとに間取りや大きさの違う、多様な7部屋からなる1ユニットのグループホームです。庭のスペースは広く確保され、一部を野菜畑に使用し、利用者と共に野菜や植物を育てています。地理的には、京浜急行YRP野比駅から徒歩で10分程の海沿いの町、長沢に位置しており、高台にあるため2階の居室の窓からは海が眺望でき、開放感があります。

●開所以来、理事長と管理者との信頼関係は厚く、また、職員も長年在籍している方々が多く職員間のチームワークは熟成され、10年を経過しても当初の「志」が継承され、日々の業務に反映されています。

●地域との関係も良好で、自治会のメンバーに加入しており、定期的に自治会役員も務めています。運営推進会議では、近隣の方も出席し、場所柄、津波発生時の避難経路についても、近隣住民の方にアドバイスを受け、実際に避難経路を歩くなど実践も行っています。事業所の庭でバーベキューを開催する際は近所の方々に参加を促して交流を行ったり、散歩に行く際には事業所手作りの名札を付けて出かけることで、何かあれば近所の方から事業所に連絡を頂く等、地域の温かい人柄も相乗し、普段から近所付き合いが良好に図られています。

#### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひなたぼっこ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H18年の法改正以来一層地域との共助的関わりを推進し、連携と関係づくりを進めている。	理念の一つに「利用者が安心して生活出来る生活環境の確保」を掲げています。理念の根拠を理解しながら業務を行うことが大事であると考え、いくつかのグループに分かれて、職員一人ひとりが「理念に沿ったケアを実践するためには」を考え、BS法・KJ法を用いた演習を行ない、作成したものを休憩スペースに掲示して、全職員で確認できるようにしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともと古くから住み続けている方の多い住宅街で、挨拶はもとより地場野菜の差し入れなど人情の厚い地域。災害時も協力体制の理解があり協力してくださっている。町内会の一員として今年度は班長を務めさせていただいている。	ホームの立地は古くからの住民が多い住宅街に位置し、温かい人柄の多い地域でもあり、近所の方と挨拶を交わすだけでなく、地場の野菜を差し入れをもらったり、気軽に声をかけて下さる方や、また、利用者が1人で散歩に出かけた時などにホームまで来て下さる方もいる等、日常的に良好な交流が行われています。管理者は、町内会の班長を務める等、地域に貢献しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生対象の福祉体験学習をはじめ、ボランティアの受け入れ、県の実施する研修での実習施設などを務めている。地域包括を中心に認知症ケア会議の取り組みも始めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の様々な役割を持った方が積極的に多数参加して下さり貴重なご意見をいただいている。また、震災後は避難経路の共有や消防団との意見交換、連携がとれている。	運営推進会には市の職員、地域包括センター職員、地域の様々な役割を持った方に参加してもらっています。事業所からの現状報告だけでなく、災害時の協力についてもお願いしており、地域の方から何かあった場合は遠慮せずに大きな声や物音で知らせてくださいと声をかけてもらっています。また、参加者の方から認知症の方への対応方法について勉強会を望む声も頂いています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市は早くから連絡協議会が設置されており、見学会や交流研修等で市との連絡は密であり協調体制が取れている。	横須賀市では福祉に力を入れており、早い時期から連絡協議会が設置され、当初は8事業所でしたが現在は44事業所が参加しています。見学会や交流研修等で、連絡は密に取り、協調体制が構築されています。また、運営推進会議にも参加してもらっており、情報交換も密に行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束はまったく行っていない。その理由など、高齢者に与える悪影響や法律の根拠などについて正しく理解し周知徹底するため、0-JT、0 f f -JTの中で繰り返し学んでいる。玄関は日中、施錠せず解放している。	行動を制御することにより能力が低下すると考えており、開設当初から身体拘束は行っていません。日中は職員の見守りで対応している為施錠していませんが、夜間は防犯上の観点から施錠しています。社内で行っている研修では実例を取り上げ、身体拘束が及ぼす影響について勉強し、職員に周知しています。また、スピーチロックが見られた場合は管理者と職員と一緒に考え、どのような言葉がけをすれば良かったのかの反省を行い、改善に努めています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	⑥と同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解と活用法については勉強会等を通じて適切に支援を行っている。しかし、制度自体の未熟さや不明確な性質から、現場においては利用者の不利益に直面する場面があり混乱が免れない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分時間をかけ、説明・同意をいただいている。日常的な意見交換も活発に行われている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対応の窓口は明確化されている。ホームの行事や面会時に主として管理者が、ご意見・要望をお聞きしているが、他の職員も臨機応変に対応できるスキルを持っており、それらを運営に反映させている。	家族とは、事業所の行事の際や面会時に管理者が主として意見・要望を聞いています。管理者不在の場合でも、長く在籍している職員が多く、家族とは良好な関係を築けており、家族から意見・要望を聞いた上で管理者に報告しています。また、事業所からの便りに同封して家族から意見・要望を聞いています。現在は全体ではなく個別対応の要望が多く、検討した上で個別に反映しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティング時に様々な意見交換を行っている、長く勤務している職員がほとんどで日常的に意見交換が活発であり、風通しの良い職員関係が構築され、何でも話し合える雰囲気も保たれている。理事長が現場に入ることもあり、トップとのコミュニケーションもよい。	月3回ケアミーティングを実施し、その際に様々な意見交換を行っています。長く在籍している職員が多い為、日常的にも意見交換が積極的に行われ、良好な職員関係が構築されています。また、理事長が現場に入ることも多く、風通しの良い職場環境が整えられています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り実施していると考えますが、介護職員の処遇や社会的地位の低さは、個々の事業所単位では解決が困難である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、職員が受けるべき研修や施設内で必要な研修を体系だて計画を立案し実施している。職員同士の互いに得た情報や学びの共有もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の連絡協議会、小規模事業所連携事業、地域包括支援センターと連携しネットワークを構築している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のみならず常に日常的に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のみならず常に日常的に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のみならず常に日常的に努めている。インフォーマルサービスを含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのその人らしさに寄り添い、価値観尊重しながら、生活上ともに助け合ったり、学び合える環境づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外泊の機会を設けていただいたり、ご家族にできることをケアプランに反映させ、協力して支援している。定期的にホームに宿泊しているご家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の代筆を行ったり、自由に面会していただいている。入所以前の生活での行きつけの場所にはご家族対応や個別対応でできる範囲の支援を行っている。	現在手紙でのやり取りをしている利用者はいませんが、年賀状やクリスマスカードを通じてやり取りしている利用者はいる為、代筆を行い、関係が継続できるように支援しています。馴染の美容室へ一緒に出掛けたり、家族対応で外出している方もいます。馴染の場所・人以外にも、昔食べていたお菓子等を取り寄せ、懐かしみながら食べてもらう等の支援も行っています。また、以前入所していた方が事業所へ訪問に来ることもあり、現在も関係が継続している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方、発語の困難な方へは職員がさりげない支援を行っている。また、自立度に関きのある利用者同士でも、助け合える関係性が芽生えており支え合って生活を送っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年2回のイベントには、退去ご家族も参加して下さったり、時折訪れてくださる方も多く近況報告をし合ったり、悩みを聴いたりできる関係が続いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いやその方なりの価値観を尊重している。ご本人・ご家族が「こうなりたい」「こういう生活を送ってもらいたい」といった意向にできる限り近づいて暮らせるよう支援している。	入所時に本人、家族から得た情報を基に意向を把握し、日々のケアの中で得られた情報は記録に残し、全職員が共有できるようにしています。日々のケアの中で得られた情報の中から話し合い、検討した上で本人の意向にできる限り沿った支援が出来るように努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の来訪時、来客時、入所前の面接時、入所前の担当ケアマネ等あらゆる情報源から情報収集し、より深く一人一人を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生きてこられた時代背景や環境・異なる文化や生活様式の違いを個々に把握し、ホームの中でもご自宅に近い生活を送っていただいている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議時に担当者会議を短時間で実施し、こまめに関係他職種の意見をまとめ、介護計画に反映させている。	毎月の職員会議では、担当者会議も組み込み、その中で家族の意向、医師の診断、看護師の意見をまとめている他、日々の連絡ノートにも克明に記入し、職員が課題を出し合い、まとめた事柄を介護計画に反映させています。また、状況に応じて随時介護計画を見直しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の方法を見直したことで、記録に費やす時間を有効に活用できている。書式を固定せず各利用者に合わせて細かく見直しを掛けながらアレンジすることで、介護計画に反映しやすく活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基準に沿い届出したサービスはもちろん、あらゆる面で工夫したり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・町内会・ボランティア・地域包括・消防・近隣住民・学生・商店等様々な方の協力を得て、豊かで安全な暮らしを楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明により、医療機関を決めていただいている。皮膚科や歯科は必要に応じて往診を依頼している。必要な医療が提供されるよう、関係者と密に相談しながら支援している。	入居時に医療機関に関する説明を行い、医療機関を決めてもらっています。内科は定期的に往診に来てもらい、皮膚科・歯科の往診については必要に応じて往診に来てもらっています。疾患によっては提携クリニックに電話で相談をし、病院を変えるなど、利用者が適切な医療が受けられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相互に密な連絡体制を取り相談して適切な看護や受診の支援をしている。看護師は個別の生活課題を具現化し、職員にわかり易く伝え気づきを促してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは小さな事でも相談しあえる関係が築けており、早期退院等のご家族の希望にも親身になり相談に応じていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いを重ねながら、状況の変化に伴い方向性や具体的なケア内容を検討し、納得のいく方法を選択している。看取り介護の要望には、ご本人・ご家族のケア、職員のケアなど丁寧に実施しているまた、そのための研修も継続している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時から話し合いを重ね、状況の変化に伴い、具体的なケア内容を検討し、家族に納得してもらった上で方向性を決めてもらっています。看取り介護を要望する際は、看取り介護計画書に医師と家族からのサインをもらった後、本人、家族、職員のケアを行いながら自然な流れでターミナルを実施しています。看取りの研修は医師や看護師の協力の下、実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が応急手当や初期対応の訓練済みである。管理者やリーダーはその指導者の研修も受講し、自己研鑽を積み重ねている職場の看護師からも適切なアドバイスがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練・消防署との総合訓練を定期的実施している。地域の方とも運営推進会議を通じ協力体制のご理解をいただいている。震災の教訓から、避難経路のシュミレーションを行ったり、備蓄品の管理を継続的に実施している。	自主訓練・消防署との総合訓練は年二回実施しています。運営推進会議の際に、地域の方から事業所内の人数を把握できるようにしてほしいとの要望があり、玄関に事業所内に居る人数を掲示しています。また、夜間は職員の数を手薄になる為。ガスの元栓を切り、IHや電子レンジを主体に調理を行っています。備蓄は食料品、オムツが3日分用意しており、各備蓄は異なる担当者が管理しています。薬も一週間多めに処方してもらっている他、利用者の血液型が分かるように名札に名前と血液型を記入して用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重・プライバシーの確保については人として当然の事柄ではあるが専門職として、基本的な知識の確認や行動規範を徹底して、振り返りや改善策の検討を行っている。	利用者の人格の尊重・プライバシーの確保について、「人」として尊重を心得、且つ、職員会議を通し、知識や行動規範の確認を徹底し、都度振り返り等を行っています。居室の入り口には名前を掲示し、声かけする際には利用者アイコンタクトを行い、正対して声掛けを行うよう徹底しています。利用者の呼び方についても職員間で統一化を図っています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの持てる能力に応じて、自己決定できる状況を意識的に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや考えに耳を傾け、表情や体ごとの訴えを受け止める・察するような対応をしている。業務優先ではなく、パーソンセンタードケアの考え方に基づいて暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性・こだわり・好み等を大切に希望に沿って支援している。季節や場面ごとのおしゃれも楽しんでいただけるようお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは、食事の都度リクエストに答えたり、家庭菜園で収穫された野菜や近隣からの差し入れなど新鮮な地場野菜を使用したり、様々な形で利用者と一緒に食事を楽しんでいる。後片付けは、自然と役割が生まれ、役割を積極的にはたしてくれている。	毎日のメニューは食事の都度に、リクエストに応えたり、家庭菜園で収穫された新鮮な食材を使用したりして決め、様々な形で、利用者と一緒に食事を楽しんでいます。後片付けは利用者が積極的に食器拭きやテーブル拭きをされる方も居て、自然と役割が生まれています。事業所ではお節料理を作っており、美味しいお節料理がロコミで地域の方に広まり、今年は何件か注文を頂く等、年末は利用者で年越しを楽しみにしながらも、地域と共に過ごすことを大切にする活力あふれたホームです。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間や回数にこだわらず、ご本人の体調・力量、ペースや習慣に応じた支援をしている。また、医療的な観点だけでなくその方のQOLに着目した食事形態を大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLの低下や精神状態を考慮し、朝晩2回行っている。それ以上の必要性がある場合は状態に合わせて回数を増減し、方法も検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別にモニタリングし、能力やリズムを把握して上で、できる限りトイレに行き使えるように支援している。自立支援を心がけ安易におむつの使用をしないよう工夫している。	個別にモニタリングを行い、一人ひとりの能力とリズムを把握した上で、できる限りトイレで排泄出来るよう支援しています。布パンツや紙パンツの使用を心がけ、安易にオムツを使用しないように工夫しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳の提供をする事に始まり、自家製ヨーグルト・オリゴ糖などを活用することで、安易に薬剤に依存しないよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の気分や体調に合わせて入浴を支援している。入浴の曜日や時間も基本的には自由。曜日や時間を決めないとかえって混乱を招く利用者もいるため、十分なアセスメントを行って決定している。好みのスキンケアや季節感のある入浴も工夫している	本人の気分や体調に応じて入浴支援に努めています。基本的には時間や曜日等は決めず、自由に入浴出来るようにしていますが、曜日や時間を決めないと返って混乱を招く利用者も居る為、十分なアセスメントを行って決定しています。入浴拒否が強い方には無理強いせず、管理者は本人の不快は最低限で良いとの考え、利用者好みのスキンケアや季節感の味わえる入浴で支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの改善や安心できる空間づくりなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法、作用・副作用を学び理解している。体調の変化や日々の変化を観察し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの個性に合わせ、個別に支援している。役割分担が自然発生的に起き協力し合ったり、趣味趣向でその方らしさを発見したりすることが多い。人の役に立つことの大切さを痛感しながら支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での散歩や外出などの個別の要望をどのように実現していくのか、あきらめずに検討しご家族や地域住民の方と協力して実現している。外出困難な方も広い庭を活用して日光浴や外気浴ができるように支援している。	事業所には広い庭があり、そのスペースを活用して日光浴や外気浴が出来るよう支援しています。近くの海岸には遊歩道もあり、一人で散歩に行く方や仲の良い利用者同士で外出に出かけている方もいます。外出の際には事業所の名前、連絡先の入っている名札を付けていることで地域の方にも一目で分かるようになっており、地域住民の方の協力も得ながら外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力とご家族の希望を踏まえ、当方で管理させていただいている。自己管理されている方とおこずかい程度自己管理のかたもいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・年賀状・電話等の支援をしている。ご家族やご友人から拒否されてしまうといった困難事例もあるので、個別に検討している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では限界があるが、少ないスペースでも工夫して有効に使っている。物品やソファの向きや配置を変えるなどできることは実行している。	ホームは民家を改装した造りの一軒家の建物で、限りあるハード面を、家具の配置等により有効活用するなど工夫を取り入れて居心地よい空間づくりに努めています。リビングには職員が描いた利用者の似顔絵、季節の花や季節の行事合わせて装飾が施され、アットホームな雰囲気作りが成されています。広い庭を活かして野菜畑をつくり、ゴーヤを育てグリーンカーテンを作ったり、チューリップを育て、利用者に水撒きを手伝ってもらう等、家庭そのものの生活を大切にしたいと考えています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	52に同じ		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間や物品は一般家庭とそんなに変わらないもの、使い慣れた愛用の物を持ち込んでいただく。必要以上の入室を控えたり、勝手に配置換えをすることの無いよう職員側も努力している。	居室内は一般家庭と何ら変わらない物や、使い慣れた物や思い出の物を持ち込んでもらっています。利用者の中にはCDを集めている方、パソコンを使う方、刺繍をするのが好きな方もいるので個人の趣味や好みの物も持ち込んでもらい、自宅に近い雰囲気での生活を継続できるように支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	きめ細かく繰り返しアセスメント・モニタリングをし、家庭的な環境でできる限り自立した生活を継続していただけるよう支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームひなたぼっこ

作成日

平成26年10月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	7 8	26年度の研修計画の 実行	前回の目標として、国 や県の流れに沿った研 修計画の立案と小規模 事業所連携事業の研修 内容にもそういった流 れを反映させて行く事 を目標に挙げた。26 年度から法人で研修の 年間計画を立て実践し ているが、まだ1年目 なので、実施後の振り 返りができていない状 況である。	今現在実施している 施設内研修につい て、年度末に振り返 りを行う。数値化し て評価を行った上で 次年度の計画に反映 させる。	H27年度中
2	1	行事や外出を嫌う利用 者が多いため、計画通 りに外出したりイベン トを実施することが大 変困難である。	職員の努力だけで解決 できない場合が多いの で、ご家族やボラン ティアなどの資源を活 用し、外出や催しもの 機会を増やしたい。	現在、歌や傾聴ボラ ンティアで介入して いる方たちにとご家 族、貢献人等へ、外 出支援の協力を求め 必要な準備を進めて いく。	H27年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。